
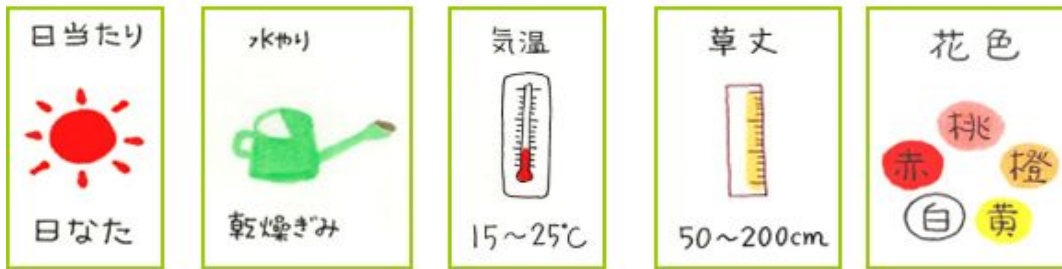


お花の栽培シリーズ「コスモス」		
2008年8月	葉月(はづき)・桂月(けいげつ)・壮月(そうげつ)・仲秋(ちゅうしゅう)・雁来(がんらい)・秋風月(あきかぜつき)	● 炎天がつづく時期
<p>● 日本の夏は、熱帯並みの暑さになり、しかも日照時間が長くなるので夜まで暑さが残ります。これが「熱帯夜」です。寝苦しい日が続きます。</p> <p>● 強い直射日光、高い気温、それにとまなう水分の不足、そのうえ舗装面や壁面の照り返し・・・など植物にとっても酷な時期です。</p>		
庭木の作業	・高温乾燥期にはいるので、植え替えや手入れは行いません。中下旬になると再び害虫の発生が始まるので早めに防除します。	
草花の作業	・草取りと乾燥したときの「水やり」が仕事です。 ・ダリア・サルビア・マリーゴールドなどは、秋の花を立派に咲かせるためには、8月初め頃に株を切り込んで新芽を出させ、追肥をします。	

今月の誕生花	アスター、アマリリス、スイレン	
今月の花	アスター (エゾギク) (ピンク) 甘い夢 花言葉 / 信じる心、同感、追想 (紫) 恋の勝利、私の愛はあなたより深い (青) 信頼、あなたを信じているけど心配 (白) 私を信じてください	
	1731年に、カトリック神父のダンカルビーユが、種子を、中国からパリ植物園に送ったとされています。それからのち、ヨーロッパに広がったということです。	
	日本には、江戸時代に渡来し、薩摩(現鹿児島県)で多く栽培されたことから、薩摩菊とよばれることもあります。	
	咲き方に特徴があり、ポンポン咲きや八重咲きなどがあります。	
このアスターは、チャイナ・アスターあるいはエゾギクとよばれていてアスター属ではなく、近縁の種(カリステフス属)です。ですが、園芸の世界では、この花をアスターと呼びます。		
原産地は朝鮮半島北部～中国北部～東トルキスタン。キク科カリステフス(エゾギク)属の1年草。草丈は30cm～1m。開花時期は6～9月。最盛期は7～8月。葉の形状は、鋸葉のある披針形。花色は赤・ピンク、黄・オレンジ、青・紫、白、複色。英名チャイナ・アスター(China Asterr)。別名 カリステフス、薩摩菊(さつまぎく)、藍菊(あいぎく)、翠菊(みどりぎく)。花持ちは1週間程度。		
花壇や鉢植えに向く種類もあり、家庭でも比較的そだてやすい花です。購入時には、葉の緑の濃いものや、鉢植えならばつぼみの数が多いものをえらびましょう。切り花も多くでまわっていますが、暑い時期には水揚げに注意しましょう。		

お花の栽培シリーズ

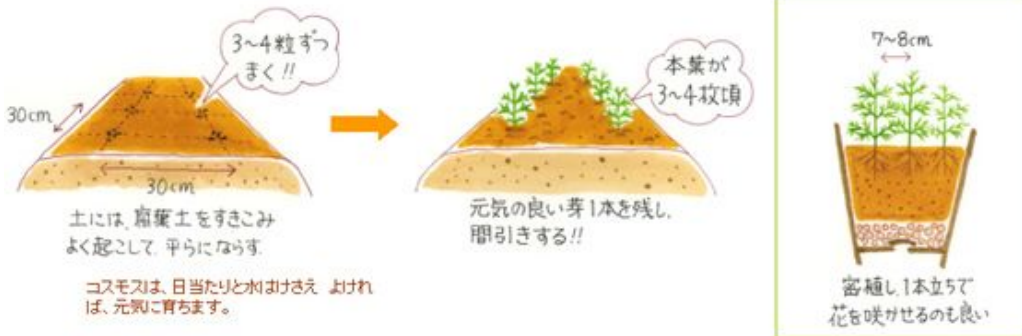
今月の花 コスモス



「秋桜」と表記されるコスモスは、そのはかなげな容姿とはうらはらに、たいへん丈夫で育てやすい花です。日光を好み、暑さに負けず、乾燥にも強いので、よく日の当たる屋外で栽培します。背が高く、倒れやすいので市中をします。また、背丈を低く育てたいのであれば、4月から6月にする種まきの時期を遅らせて7月に種をまくとよいでしょう。鉢植えで育てるなら、背丈の低い「早咲きコスモス」が適しています。「早咲きコスモス」の代表的なものは、キバナコスモスです。名前のとおり、通常のコスモスとは異なる黄色と、橙いろの花がさきます。「早咲きコスモス」の代表的なものは、キバナコスモスです。「早咲きコスモス」は、10℃以上であればどんな時期に種をまいても2ヶ月後には花を咲かせます。また、花後に枝を切り戻してやると、2番花が楽しめます。この性質を花壇づくりに生かして初夏から秋にかけて次々と花を咲かせることもできます。






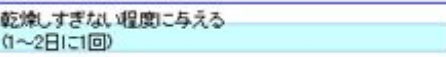



●種まきからの育て方



●挿し芽のやり方



●年間スケジュール

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
状況	花期 											
置き場	屋外の日当たりのよい場所 											
水やり	表土が乾いたら与える (1日に1回)  乾燥しすぎない程度に与える (1~2日に1回) 											
肥料	※とくに必要はないが、生育が悪いときは、液肥をあたえる											
病気 害虫	うどんこ病が発生したら、ベンレートなどを散布する。 アブラムシ、ハダニが発生しやすいので、オルトラン粒剤などを 株元にまいて防除する。 											
作業	種まき  花から採み  挿し木 